

マネジメントコース研修生のつぶやき

編集者注：このコンテンツは、マネジメントコース(※)の研修生が持ち回りで担当し、それぞれの所感等を述べたものです。

※ 地方自治体職員が、自治大で一年間を過ごす研修。研修期間中の概ね半分は自治大の実務に従事、半分は通常の研修(第1部課程等)を履修することによって、実践的に高度の政策形成能力及び行政管理能力の向上を図るもの。

自治大のマネジメントコース生(通称「特研生(特別研修生の略)」)としての研修も、いよいよ折り返しの時期となりました。これまでの半年を振り返ります。

<研修について>

上半期は実務研修、下半期は第1部課程141期研修生として座学研修に臨みます。

実務では教務部に所属し、第2部課程研修・法制集中研修(主に市町村職員向け)の担当をしています。主な業務内容は研修の企画・運営、御出講いただく先生との連絡調整です。執筆の時点(9月末)では、下半期に実施予定の第2部課程研修の準備を進めています。同時並行で、自身がこれから受ける第1部課程研修の入校前事前課題をこなさなければなりませんので、かなり忙しい毎日を送っています。

総務省の職員の方々や全国から集まった特研生と一緒に仕事をしていますが、仕事に対する姿勢や見方は大きく変わります。自分が知らない同業他社(者)の文化を知ることは、自分にとって、これまでの仕事のスタイルを振り返るいい機会です。

また、全国から集まる研修生の皆様、御出講いただく先生方との交流も自分にとっては非常に刺激となります。特に、御出講いただく先生方の授業を聴講したり、講義の前後で先生と一対一でお話ししたりする時間は、非常に贅沢な気持ちになりました。他にも、研修生の皆様からお誘いをいただき、居酒屋や食堂で食事を一緒にしたことも非常にいい思い出です。運営側と研修生という間柄ではありますが、お互いの地元のいいところをPRし合えるのは、自治大ならではです。

<生活面>

特研生は1年間、自治大の寄宿舎(寮)で生活をします。1年間限定で立川市民です。これまでの本企画でも綴られているように、生活面は不自由しません。「○○を買いたい」「●●を食べたい」という感情は、ほとんど徒歩圏内で解決できます。まちを散歩し、色々なお店を見つけて「『食』を楽しむこと」が私の趣味の一つでもあるので、日々楽しんでます。

また、新宿や渋谷、横浜にも1時間以内に行くことができるという立地の良さです。私はカメラが趣味なので、休日は機材を抱えて撮影に行ったり、近所の立川ステージガーデンや商業施設で行われるライブイベントを見に行ったりと、好きなことをしています。同じ特研生でも休日の過ごし方は十人十色です。他の特研生のコンテンツも読んでみてください。

<まとめ>

特研生として自治大に来ると、派遣元自治体では絶対に経験できないようなことがたくさん経験できます。仕事や課題をこなさなければならぬ大変さがありますが、得られるものは多く、今後派遣元に戻ってからも非常に役立つと考えています。そうなるように残りの半年間も頑張っていく所存です。(担当：S・T)



図書室では数多くの専門書、雑誌、新聞が読み放題です。研修企画に当たり、自分が雑誌で読んで「講義を聴いてみたい」と思った研究者の方の御出講を提案できるのも特研生の醍醐味です。



災害級の暑さと言われる中、休日に横浜赤レンガ倉庫で行われた野外ライブに参加しました。仕事もプライベートもどちらも充実しています。この大砲からは、泡や水が大量に放出され、びしょ濡れになりました。